

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 4つの研究分野 (聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野) とその内容について、研究科の内外に周知を図ると共に、神学研究科の理念・目的との関連について定期的な検証を行う。	→履修モデルの作成と公開 (WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映 [心得に掲載])	C	C			
2. 上記研究分野を基礎とした履修コース (キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース) それぞれの意義付けを、カリキュラム編成に生かす。(博士課程前期課程)	→コース名称の変更とカリキュラムの改訂	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
	(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない
	(理念・目的) 神学研究科は、関西学院創立時の「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」という基本理念を具現化するため、キリスト教宣教のための高度な専門的知識を具えた職業人を育成することを使命としている。キリスト教界、とくに教会やキリスト教主義学校教育、社会福祉や社会活動の領域において指導的な役割を果たす人材を送り出し、また神学の領域では独創的な研究者を生み出すなどの実績を残してきたが、今後もこれを継承発展させていく。
	神学研究科では、神学を専攻領域とし、その中に、4つの研究分野（聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野）を設けている。学生各自が研究主題を選び、指導教員との学問的、人格的な触れ合いによって、それを深め、学位（修士、博士）を取得できるよう、研究と教育を行っている。
博士課程前期課程キリスト教神学・伝道者コースにおいては、キリスト教界の指導者となるための実践的な能力を育成するカリキュラムを設ける一方、キリスト教思想・文化コースにおいては、特にキリスト教の歴史・文化、思想分野における専門知識と思索を深めるべく科目群を用意している。	
さらに後期課程では、神学専攻の研究者育成を目指している。高度な神学研究を続けるために必要な知識と論文執筆や学会発表のできる学問的な能力、文献読解に必要な古典語および外国語を自由に駆使する能力を高め、3年間にわたり専門分野の研究に集中して取り組み、神学の専門家として社会と教会とに貢献できる人材の育成を目指す。	
神学研究科の教育目標および人材育成の目標については以下のとおりである。	
1. キリスト教神学、キリスト教思想・文化の高度な研究の推進 神学の基礎的な知識に裏打ちされて、専門的な知識と思索を深め、各自の専門領域において、優れた特色ある研究を行えるよう、指導する。	
2. キリスト教の宣教に従事する専門的職業人（伝道者）の育成 ことに博士課程前期課程キリスト教神学・伝道者コースにおいては、礼拝の指導者、説教者、牧会者として宣教の現場で直ちに活躍しうる人材育成を目指す。さらに、教会などのフィールドで経験したことを理論的に反省し、それを再び実践へと活かすことのできる能力を育成する。	
3. 総合的な知を身につけた社会人の育成 キリスト教の本質にふれつつ、幅広くキリスト教に関する知見を養い、多元化社会において深い見識をそなえ、具体的な社会や世界の問題を発見し、これとキリスト教的な立場から取り組み、解決できる人材を育成する。	
(説明) 神学研究科の理念・目的は、関西学院創立時に制定された「憲法」に記されているものを受け継ぐと共に、神学部での履修コース制の完成年度を受けて、2008年度よりキリスト教思想・文化コースを設けた。それにより、さらなる展開を目指したものとなっており、適切であると認識している。	
小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ ● 周知・公表している ○ 周知・公表していない
(説明) WEBサイト上に公開している。特に、学生が Semester ごとの履修計画を立てる際に参照する『履修・学習要覧Webサイト（大学院用）』の冒頭に掲載することで、都度周知され、理解されることを期待している。	
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない
(説明) 2010年度にディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を策定する過程で検証を行っている。今後、カリキュラム・ポリシーの策定、あるいは付随する施策を検討する際にも常に参照することにより、その適切性について確認をしていく。	
その他	

## 《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー（マスタリー・フォア・サービス）をどの意識しているか

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

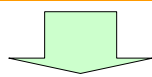
理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

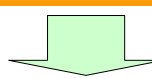
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

その他 (自由記述)	
---------------	--

Ⅲ. **学内第三者評価**

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○研究科の理念・目的はよく整理されていますが、設定目標の進捗評価を更に向上させることが望まれます。

【学内委員】

○この項目はほぼ順調に進展しています。理念・目的の学内外への周知について、何らかの方法で検証することが期待されます。

○0.0.2研究科の理念・目的が構成員に周知され、社会に公表されているものの、その理解度、認知度について検証され、実質的に理念・目的が浸透することが期待されます。

○神学の研究科の理念・目的、教育目標、人材育成の目標はいずれも適切に設定されており、記述も後期課程について追加記述されるなどの確ですが、大学基準協会が小項目0.0.1の基盤評価として「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」としています。これについて記述することが求められます。

○構成員への周知については、昨年度の改善すべき事項にあがっていますが、本年度に記述がなく進捗が伺えません。記述することで、PDCAサイクルが機能していることが確認できます。なお、WEB以外の公表媒体についても記述されることが適当でしょう。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・理念・目的などについては目標にもかかげ適切に社会に公表しています。しかしながら、記述にあるように本学構成員への周知に課題があります。また、関係者以外の一般社会への周知度、認知度について考える必要があるのではないのでしょうか。公表した結果どのように周知されたのか、認知されているのかは重要なことです。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

## ○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

## ○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★小項目0.0.1における現状説明について、神学研究科の理念・目的は、「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」として大学院学則で定めているほか、学生が履修計画段階で閲覧するWEBサイトにも掲載し、周知を図っている。